

第三者評価結果

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成

第三者評価結果

【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している	a
<p>・全体的な計画は、本社が作成して各園に配信している。保育理念、保育方針、保育目標に基づき作成されており、園では年度初めの職員会議で全体で読み合わせをし確認している。子どもの発達や家庭の状況、地域についてなど園の状況を踏まえ、作成につなげている。</p> <p>・年度末には自己評価を行っているが、意見が少ないことを課題としており、研修などを通して理解を深めることを目指している。</p>		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	a
<p>・園舎は平屋立てで床や壁をはじめ、机・椅子・おもちゃなど木の温もりを感じることができ、子どもが家庭のように安心して過ごせるように配慮されている。室内の温度、湿度はエアコン、加湿器により適切に保たれ、定期的に換気も行われている。ウッドデッキもあり日当たりがよくあたたかい環境である。</p> <p>・園内外の設備は定期的に安全チェックシートで点検し、安全に配慮している。保育室内は、子どもの成長や動きに合わせて設定を見直し、手作りのパーテーションを利用して、子どもの状態に合わせて仕切りをして使用するなど工夫している。乳児保育室は食事と遊びのスペースに分けて使用し、幼児クラスは全体を広く使用できるようにしている。</p> <p>・手洗い場には足形を示し、順番を待つことができるように工夫し、手洗いポスターや歌を掲示し正しく手洗いができるようにしている。トイレや手洗い場は日に2回清掃し清潔を保てるように努めている。</p>		

【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている	a
<p>・乳児は発達に個人差があるため、毎月の個別計画を立てている。幼児は就学に向けて10の力をつけるために月別に個別指導計画を立て振り返りや自己評価を行っている。</p> <p>・年度始めに二子新地の保育として、子どもの気持ちの受け止め方やことば使い方について具体的に文章化したものを読み合わせ確認している。また、園内研修として保育ガイドを使って人権や虐待等について学びあう時間を設けている。</p> <p>・生活の中で泣いたり、乱暴な行動をとるなど気になる行動をとる子がいる時は場所を変え1対1で対応し、子どもの気持ちに寄り添いながら対応できるように努めている。子どもの気持ちが落ち着くまで待つことや、子どもの話をじっくり聞くことを大切にしている。</p> <p>・乳児会議、幼児会議、パート会議、職員会議において、子どもについて話し合う機会を設けており、多面から子どもを理解するように努めている。毎日の昼礼で子どもの状態や喫食状況など報告し共有することで、一人ひとりを大切に保育できるように取り組んでいる。</p> <p>・禁止言葉などは使わないように努め、ほめる、認めることを大切に、会議でも伝えている。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている	a
<p>・生活や遊びの中で、年齢に応じて基本的な生活習慣について伝え、身につくように援助している。ロッカー、靴箱、かごは個人マークを示し、自分の場所や持ち物をわかり片付けなどがしやすいように工夫している。着替えなどは、子どもがやりたい気持ちを持てるように、出来るところから手伝いながら伝えている。</p> <p>・トイレトレーニングは年齢にかかわらず、午睡後におむつが濡れていなかったら、トイレに座ってみようと言をかけ、子どもの負担にならないようにゆっくり進めている。3歳の夏のプール遊びまでにはおむつがとれるように保護者と相談しながら進めている。</p> <p>・保育室内はパーテーションで区切り、活動の場と休息の場を分けて活動が保障されるようにしている。年齢に応じて休憩時間を設けており、年長児は年明けより少しずつ時間を少なくし、卒園にむけての準備や活動、制作などに取り組んだり、絵を描いたりして静かに過ごせるように配慮している。</p> <p>・幼児クラスでは当番活動を通して、責任をもって役割を果たすことやみんなの役に立つことなどを知り、やりがいをもって取り組めるように援助している。年長児がリーダーとなり後半は4歳も一緒に行い、朝の会の挨拶、出席簿を取りに行く、いただきますの声掛けなどを楽しく行っている。</p>		

【A5】	A-1-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している	a
<p>・子どもが主体的に活動できるように、玩具は棚に置き自分で選び遊べるように設定している。ままごとなどのコーナー作り、絵本は保育室と廊下にも本棚があり、好きな本を自由に選んで見ることができており、玄関先にも設置し保護者と一緒にも読めるようにしている。貸出案内については園だよりで知らせている。</p> <p>・くれよん、のり、はさみは個人で持ち、いつでも使えるようにしている。制作は週1回廃材を使った活動を取り入れ、自由遊びの時間にもねんど、ぬりえなどに取り組み、子どもの作品は玄関に展示している。</p> <p>・表現活動、劇遊びも盛んであり、子どもが遊びや絵本の中から劇をつくって発表をする機会もある。</p> <p>・地域交流は、勤労感謝の日に消防署にリースを届けたり、老人クラブとの交流などがあるがコロナ禍にあり現在は中止している。</p> <p>・散歩、公園、広場などで遊んだり、河原で遊ぶなど。遠足は歩いていけるところへ出かけた。幼児はお弁当もっていった。</p> <p>・年度始めに散歩マニュアルや散歩マップを作成し、安全に散歩が出来るように取り組んでいる。子どもの意見を聞き散歩先を選択することもあり、公園、広場、河原など自然に親しむことができるように配慮している。遊びも子どもの発案を大切にしており、ルールも子ども同士で決めるようにしている。</p>			

第三者評価結果

【A6】	A-1-(2)-⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	0
------	-----------	--	---

非該当

【A7】	A-1-(2)-⑥	1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
------	-----------	---	---

1歳児、2歳児クラスでは、子どものやりたいという気持ちを尊重して、自分でやろうとしている時は見守るように努めている。危険な場所にはパーテーションをするなどして入らないように配慮し、他は自由に遊べるように広い場所を確保している。

- ・小規模園であるため、異年齢で過ごす時間も多くあり、子ども同士で遊んでいる時は保育士は見守り必要に応じてその場にあった動きが出来るように心がけている。子ども同士の関りも多くなるため、トラブルが起きた時は様子を見守り、必要に応じて保育士が仲立ちし、気持ちを代弁するなどの対応をしている。
- ・保育士以外の関わりとしては、栄養士が喫食状況を見に来たり、見学者が時々来て挨拶をする位であるが、散歩では地域の方に挨拶するなどの機会がある。
- ・乳児クラスは連絡帳と送迎時の会話により保護者と子どもの様子を共有できるようにしている。トイレトレーニングや箸の使い方は保護者と連絡をとってすすめており、体調など気になる場合には保護者と連絡を取り合い受診するなど対応を行っている。

【A8】	A-1-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
------	-----------	---	---

- ・幼児クラスは同じ保育室で過ごしているが、年度初めは3歳児が幼児の保育室や生活になれるまで、3歳児だけで生活する時間を多くするなどの配慮をしている。異年齢で過ごすことにより、年齢の違いにより出来ることや出来ないことなどをお互いに認め、尊重し思いやりの気持ちをもつことができるように援助している。
- ・生活や遊びの中でも年長児が中心となり、運動会、夏まつりなどの行事にも積極的に取り組む姿が見られている。行事の実施にあたっては、子どもが興味関心をもって取り組めるように、子どもの意見を取り入れるようにしている。また、日々の保育の延長に行事があると考え、取り組んでいる。
- ・今年度はコロナ禍であるため、運動会は幼児のみ保護者の見学を可能とし、年齢別に発表する形での生活発表会など、制限のある中で工夫し感染症予防対策を行いながら実施に取り組んでいる。懇談会も中止となっているため、子どもの育ちについては個人面談で詳しく伝えるようにしている。

第三者評価結果

【A9】	A-1-(2)-⑧	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
------	-----------	--	---

- ・園内はバリアフリーであり、車椅子で入られるトイレも備えている。
- ・今年度は、障害のある子どもの在籍はないが、受け入れの実績はあり体制は整っている。障害及び配慮が必要な子どもの保育にあたっては、個別の支援計画を作成し、個別日誌をつけるなどの対応をするとともに、職員間で情報を共有し、共通認識のもとで保育にあたるように取り組んでいる。希望により、臨床心理士による巡回指導を受けることも可能であり、専門的なアドバイスを受け、職員間で共有し保育に反映できるようにしている。
- ・今年度はコロナ禍にあり、研修に参加することができていないため、園内研修で取り上げる予定としている。また、障害について学ぶため本を準備しており、各自で学習を進めるようにしている。

【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・保育時間の長い子どもが、落ち着いて過ごせるように、午前と午後の活動内容は静と動のバランスに配慮し、変化を持たせるようにしている。園庭がないこともあり、日に1回は散歩にでかけ外気に触れる時間を設けるようにしている。 ・現在のところ延長保育時間の利用は少ないが、18時に合同としており希望により補食を提供し空腹を感じることなく過ごせるように配慮している。机上で遊べる玩具やゲームなどを用意してゆったりと過ごせるようにしている。 ・日中の子どもの様子については、昼礼で共有しているほか、各クラスの連絡簿と口頭により引継ぎを行い伝達もれのないように努め、保護者への伝達状況は園長日誌に記録している。 		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している	b
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画、指導計画の中には就学に向けた取り組みや小学校との連携についての記載があり、それに基づいて保育を行っている。 ・年長児にむけては、小学校生活に見通しが持てるように、時計を使用して一日の予定や時間を知らせたり、自分の持ち物の確認や整理などができるように伝え、援助している。 ・年長クラスの担任は、保育所児童保育要録を作成し園長と内容を確認のうえ持参、または郵送している。 ・今年度は交流会などは中止となり、就学に向けた小学校との連携は図れていない。小規模園であるため小学校との連携は難しい状況であり課題としている。当園だけでなく地域の小規模園が集まり就学先小学校と連携がとれるように、地域支援担当者と検討中である。 		

A-1-(3) 健康管理

第三者評価結果

【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> ・保健衛生ガイドに基づき、子どもの健康管理に努めており、年度初めに保健計画を作成し健康指導を行っている。クラスごとに担任が手洗い指導、歯磨き指導などを行っており、乳児クラスは一緒に洗いながら正しい手洗いが身につくように指導し感染症予防に努めている。 ・登園時には必ず熱を測り、保護者と確認の上で連絡ボードに記入している。子どもの健康状態については昼礼でも報告し全体で共有できるようにしている。保育中に発熱などの体調変化が見られた場合には、保護者に連絡している。昼礼に健康状態を共有している。 ・入園時に重要事項説明書において子どもの健康について説明し、園でのSIDSチェックの取り組みについても伝えている。ポスターの掲示、ほけんだよりなどで、子どもの健康や感染症、季節の注意などについて保護者に伝え注意を呼び掛けている。 		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している	a
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な健康診断、歯科検診、身体測定により子どもの健康管理を行い、一人ひとりの健康の記録に記入し保護者に伝えている。園医との連携が取れており、けがや発熱時には電話でも受診の目安などについて相談することが可能である。幼児クラスでは給食後の歯磨きを行っており、担任が歯磨き指導を実施している。コロナ禍においては、模型を使つての指導となり、仕上げ磨きなどの援助もできないことから、家庭においてしっかり歯磨きを行うように保護者をお願いしている。 		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている	a
<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児への対応はアレルギー対応ガイドラインに沿って行われており、健康管理委員会からの指示に従っている。今年度は食物アレルギー児の在籍はないが、対応が必要な場合は適切に行うことができるよう日頃より全体への周知に努めている。 ・食物アレルギーへの対応は、医師の指示書に従い保護者との面談により書類を作成し除去食を提供している。毎月の献立を保護者と園長、担任、栄養士で面談の上確認し、提供時は専用の食器とトレーを使用して給食室、受け渡し時にも確認の上で先に提供する流れとしている。食事の際には席を離し、職員が介助し誤食のないように配慮し、個別のファイルを作成して追跡調査ができるよう取り組んでいる。 ・栄養士は栄養士会や研修などへ参加し、職員会議で情報提供を行っている。 		

A-1- (4) 食事		第三者評価結果
[A15]	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している	a
<p>・食育計画を作成し、目標に沿って年齢ごとに取り組んでいるが、コロナ禍にあり今年度は制限がある中において、可能なことを工夫しながら実施につなげている。年齢に応じて、食具の持ち方や姿勢などの食事のマナーについて知らせるようにしており、幼児クラスでは保育士と一緒に食事をしながら伝えるようにしている。栄養士も給食での様子を確認するなかで、マナーを知らせるようにしている。法人全体の取り組みとして食器は瀬戸物を使用し、大切に扱うことも説明している。</p> <p>・栽培活動として2歳児以上で野菜の栽培に取り組む、ミニトマト、オクラ、カブ、ナス、などの水やりから収穫までを体験できるようにしている。玄関には翌日の給食で提供する野菜を掲示して保護者に見てもらおうようにし、子どもとの会話にもつながるように取り組んでいる。自宅では食べないが給食では食べることができたとの保護者意見もあり、給食で人気のあるレシピや、保護者からの要望のあるレシピも伝えるようにしている。</p> <p>・幼児クラスでは3色栄養群について伝えており、栄養士が掲示し子どもにも問いかけをして栄養などにも興味を持てるようにしている。</p>		
[A16]	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している	a
<p>・本社工場の献立を使用し、2週サイクルでの提供を行なっている。旬の食材を取り入れ和食中心で作成されており、鯉節と昆布で出汁をとることを基本とし、素材の味を意識できるように薄味で食べやすいように調理を行っている。</p> <p>・行事では暦を意識し冬至ではかぼちゃを提供したり、ひなまつり、こどもの日、七夕など日本の文化にも触れることができるように取り組んでいる。毎月の誕生日会では、型抜きなどを使用して盛り付けに工夫をしたり、おやつを工夫するなど、子どもが行事での食事を楽しみながら食べることでできるようにしている。必ず食前に行事の由来や意味などの説明を行い、給食だよりでも取り組みの様子を知らせている。</p> <p>・毎月の職員会議では栄養士と園長、保育士間での意見交換も行われ、子どもの喫食状況を共有し、給食、おやつ、捕食についても確認して食べにくい食材や献立などがあれば、検討し2回目の調理に活かせるように取り組んでおり、給食日誌に記録している。</p>		

A-2 子育て支援

A-2- (1) 家庭との緊密な連携		第三者評価結果
[A17]	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている	a
<p>・保護者とは送迎時の会話や連絡帳で毎日の子どもの健康や連絡事項を共有できるように努めている。乳児クラスでは連絡帳で毎日の様子をやり取りし、幼児クラスでは必要な場合に記入してもらうようにしている。幼児クラスにおいても、保護者となるべく会話をして子どもの様子を伝えあうようにしているが、定期的に月1回は園から子どもの状況を伝えるように取り組んでいる。</p> <p>・毎月のえんだよりでは、月の予定や取り組みについて伝え、クラスだよりでは年齢ごとのねらい、活動の様子を写真とともにわかりやすく伝えている。4月の懇談会では年間指導計画の説明をし、2月には振り返りなどをクラスの様子を伝え園での取り組みについて保護者に理解を促している。園内には、活動の写真で掲示したり、「今日の保育の様子」をクラス前に掲示して保護者に伝えるようにしている。</p>		
A-2- (2) 保護者等の支援		
[A18]	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている	a
<p>・保護者からの相談には、いつでも応じる体制としており、希望があれば時間をきめて個別に対応している。日頃より、保護者との会話を大切にしており、園長も保護者に声をかけるようにするなど、相談しやすい環境づくりに努めている。</p> <p>・急な延長保育や土曜保育の連絡を受ける場合もあるため、速やかに全体に知らせ体制をとるようにし、保護者の就労事情に配慮できるように取り組んでいる。</p> <p>・相談を受けた保育士が適切に対応できるように、園長からの助言を受けられる体制であり、必要に応じて面談に同席するなどの対応をしている。</p>		
[A19]	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている	a
<p>・朝の受け入れ時には視診により子どもの様子を把握できるようにしており、気になることがあれば保護者に確認するように努めている。また、着替えの時には体を確認し、傷などがある場合は保護者に確認をしている。子どもの様子だけでなく、保護者の様子にも配慮しており、いつもと違う言動や態度などがあれば園長に報告し、職員間で共有する流れとしている。</p> <p>・保育ガイドを使用して、虐待に関する園内研修を行い、休憩室にはチェックポイントを掲示し振り返りができるようにしている。権利については冊子を事務所に置き確認できるようにしている。虐待を発見した時の対応フローを掲示し、それに沿って対応できるように周知に取り組んでいる。</p>		

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている

a

- ・日々と週の自己評価は保育日誌に記入し、月案は月毎、年間計画は4期に分けて自己評価を行い職員会議で発表し、質疑応答の時間を設けており、園全体で取り組んでいる。
- ・保育士の自己評価は、本社作成のにじいろの保育で行い、園全体としての自己評価は、職員全体で年度末に行っている。
- ・個人の自己評価は前期、後期に分かれており結果は園長が確認のうえ、個別に話している。個人がスキルアップを目指し、意欲を持って保育に取り組むことができるように支援しているが、保育士の自己評価が互いの学び合いにつながるまでには至っていないため、課題としている。
- ・職員一人ひとりが子どもに寄り添い、保育に力を入れ取り組んでいるが、保育内容に関する意見交換は少ないことを課題としている。